

蒙談



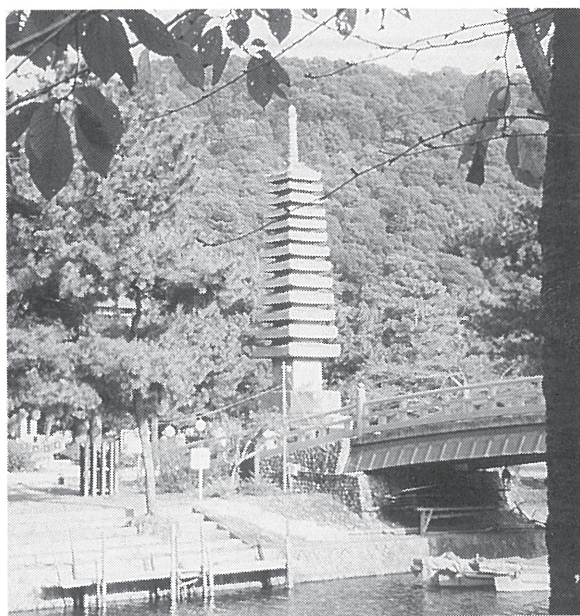
第 41 号

— 主宰 金本利雄追悼号 —

蒙 談 会 発 行

宇治十三重石塔を仰ぐ

宇治川に架かった宇治橋の上流に中州があり、浮島とか塔の島と呼ばれている。左岸には国宝の平等院鳳凰堂が、右岸には朝日山を背にした興聖寺、宇治神社や宇治上神社が歴史を刻んでいる。近年、源氏物語宇治十帖に因んで資料館が出来て観光客が更に増えたそう。さて、この浮島にわが国最大の石造仏塔が聳えている。高さは十五米余で均斉のとれた美しい十三重石塔である。周囲の松と清流の間に建つ白御影の石塔は陽光に眩しく、宝塔の名にふさわしい。石組みの八角基壇の西面に嵌め込まれた黒の銘板石に次の説明が誌されていた。



浮島に建つ十三重大石塔

八^は
田^た
ひろ
いち



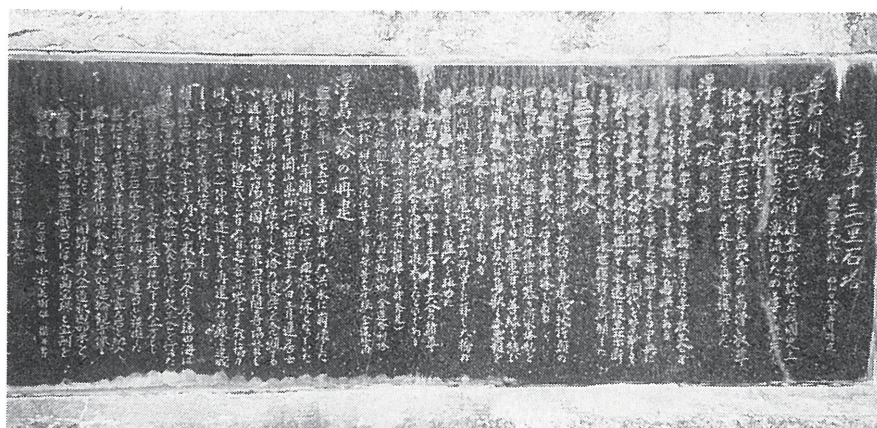
道元禅師
ゆかりの興聖寺
石門と琴坂



宇治平等院鳳凰堂



国宝宇治神社
菟道稚郎子（仁徳天皇の弟君）がご祭神
うじのわき いらつこ



浮島十三重石塔の由来が書かれた銘板石

「浮島十三重石塔」

重要文化財

昭和廿八年三月指定

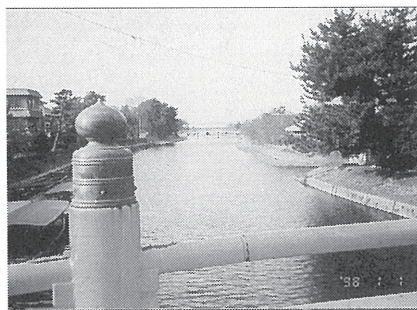
宇治川大橋

大化二年（六四六）
僧道登が架設した
我國史上最古の大
橋であったが、激
流のため屢々、流
出し久しく中絶し
ていた。

弘安九年（一二八
六）奈良西大寺の

高僧叡尊律師（興正菩薩）が是れを再建復興した。
浮島（塔の島）

叡尊律師が宇治大橋を構築するに当たり放生会を修
する祈祷の道場として築いた島嶼である。即ち、島



塔の島への渡り橋から
下流の宇治橋を望む

は五十四尊大会を模した舟型とし、その中央に大塔
婆を建立し大橋の上流一帯は網代を禁制して漁民の
漁具を悉く此所に埋めて永遠に殺生禁断を誓い大橋
の再建成就と永世護持を祈願した。

十三重石造大塔

弘安九年、叡尊律師が大橋の再建成就祈願のため建
立した日本最大の石造佛塔である。「一見卒塔婆
永離三惡道」の佛語に基づき、河水塔影を浮かべて
遠く蒼海に漕いでは鼈亀自ら善縁を結び、清風支捷
に触れて汎く山野に及べば鳥獣も亦惡報を免るとす
る理念に據るものである。

塔の開眼法要には龜山上皇の行幸を拝し、大橋の落
慶法要と共に営まれ盛大を極めた。

塔高の五丈大は五智如来、十三層は十三大会の
諸尊

台石の九尺四方は九会曼荼羅を擬表したもので
ある。

塔中納藏品（宝曆の大洪水に崩壊した時発見）



わが国最大の十三重石塔
相輪と九層目の勢至石は後補

如意輪観音像 十三佛 水晶五輪小塔 金造舎

利塔 五鈷鈴 紺紙金泥法華經 同無量寿經

金造経筒

浮島大塔の再建

宝暦六年（一七五六）未曾有の大洪水に崩壊した大塔は百五十年間、河底に深く埋没した俣となっていた。

明治廿八年、岡山県の仁 福田海主 多田青蓮居士 叡尊律師の誓旨を継承し大塔の復興を発願するや

近畿・東海・山陽・四國の信衆一斉随喜協賛し、宇治町 岩井勘造氏を首め、有志者亦挙つて之に協賛し同四十一年（一九〇八）仲秋遂に克く再建の誓願を達成して大塔往古の優姿を復元した。

開眼法要は各宗寺門 交々嚴修 旬余に及び福田海は佛影五百万体を奉流 水燈供養を修し放生会を行った。

塔の重量廿三万八千余貫 基盤は地下十尺立方とし、大般若經一字一石写経石を埋納 八葉蓮台を模擬した基壇には日露戦争陣没将兵廿三万八千霊名石を入 塔中には叡尊律師が奉藏した如意輪観音像と十三佛と新たにシヤム國請来の金造釈迦如来を安置し、頂上の虚空藏石には水晶宝珠と宝剣を納藏した。

右京嵯峨 小林 美樹雄 撰并書

この塔の詳細につき更に知りたいと思つて宇治市歴史資料館に問い合わせた。照会に依えて歴史資料係・文化財保護係の吉永利明氏が二十一枚に及ぶ資料を直

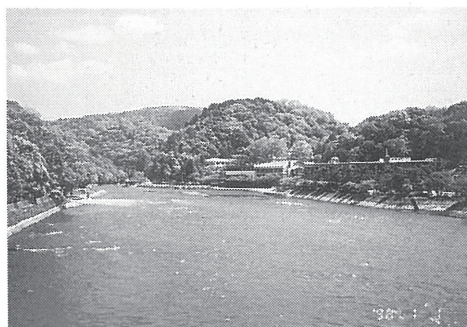
ちに送って下さった。

「宇治橋―その歴史と美と―」（宇治市歴史資料館）によると

『浮島十三重宝塔は弘安九年（一二八六）十一月十六日叡尊律師興正菩薩が建立したが、その後宇治川の大洪水で倒壊した。延文元年



興聖寺にある宇治塔の半折した旧相輪一九輪石



塔の島より見た宇治川上流、琵琶湖が水源



大正初めから稼働して今も現役の宇治発電所。その放流水が宇治川へ注ぐ。

（一二三五六）十一月二十一日尼道秀が再建した。慶長三年（一五九六）大地震のため十三重塔傾く。慶安三年（一六五〇）九月二十日、淀城主永井信濃守尚政が傾損した宝塔を修復した。宝暦六年（一七五六）九月十六日、宇治川大洪水のため十三重塔倒壊、宇治橋も流失。多田青蓮率いる福田海信徒や地元有志によって多大の資金調達や難工事の末、明治四十一年（一九〇八）八月二十一日浮島十三重塔再建竣工。同年十月十五日、多田青蓮のちの中山通幽師の福田海、この日より十三日間宝塔再建開眼供養を営む。昭和二十八年

(一九五三)三月三十一日浮島十三重塔が重要文化財に指定された。昭和四十二年(一九六七)四月二十六日浮島十三重塔基壇に「宝塔建立と再建の由来」を刻んだ黒御影石製銘板が嵌め込まれ、除幕式が挙行された。』

おわりに

この大塔の創建、再建に関わった多くの人々の熱誠



再建なった十三重宝塔

と布施・隠德行は筆舌に尽くすことはできない尊い大事業であった。大塔の周囲を巡り松林を散策した。清流の白波を見ながら瀬音に耳を澄ます。川面をわたる、さわやかな涼風に心身が洗われた。この仏塔を一目みれば、地獄、餓鬼、畜生道を永久に免れるとする「一見卒塔婆 永離三惡道」の十文字の佛語は奥深いものがある。その意義を味わいながら宇治を発ったのだった。

【参考文献】

- | | |
|----------------------|----------|
| 「宇治の建造物」 | 宇治市教育委員会 |
| 「京都の文化財第21集」 | 京都府教育委員会 |
| 「宇治市史4巻 ―浮島十三重石塔の再建― | |
| 再建の着手と福田海」 | 宇治市 |
| 「宇治市史2巻 ―中世の歴史と景観―」 | 宇治市 |
| 「宇治の碑 路傍の語り部たち」 | 宇治市歴史資料館 |
| 「橋寺」 | 雨宝山放生院橋寺 |

以上の文献を送って頂いた宇治市歴史資料館の吉永利明氏に深甚なる謝意を表します。